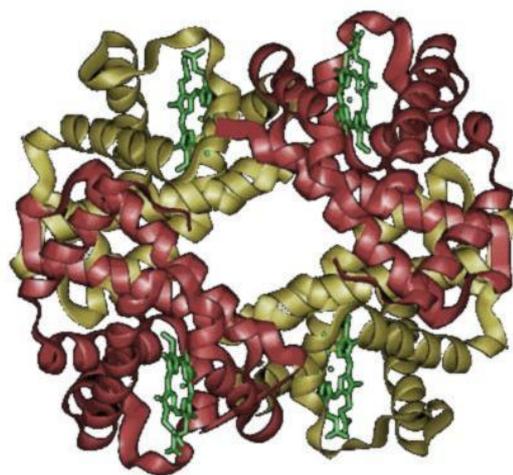


右の分子構造は、Wikipediaから転載した「ヘモグロビン」の構造です。鉄を含むヘムというタンパク質と、グロビンというタンパク質で構成されるのがヘモグロビンです。

ヘモグロビンは、赤血球の中に含まれます。酸素を運ぶ役割があり、酸素と結合すると「鮮やかな赤色」になり、酸素が離れると「暗い赤色」になります。まさに「血液の色」そのものです。



## 心臓血管外科★健康講座

「貧血」は、一般用語としては「フラフラして意識がなくなる」という意味がありますが、医学的には「血液の中のヘモグロビンが少ない」ことを意味する言葉です。

### ヘモグロビンの正常値

(当院の場合)

#### 男性

13.7～16.8 g/dl

#### 女性

11.6～14.8 g/dl

岩手県立中央病院心臓血管外科では、身近な医療の情報を解説した健康講座を県民の皆さんに提供します。第8号は貧血です。

貧血は、血液の中のヘモグロビンという赤い色素の量が少ない状態です。ヘモグロビンは、鉄を含むヘムというタンパク質とグロビンというタンパク質でできています。酸素を全身に運ぶ役割を果たしており、赤血球という細胞の中に存在します。

食事の中の鉄分が不足すると貧血になることはよく知られています。ヘモグロビンの体内産生量が減るからです。鉄を多く含む食品をとっ

たり、鉄剤を内服して治療します。また、葉酸、ビタミンB12といった栄養分が不足した場合も貧血になります。

また、**出血すれば、貧血になります**。産生量以上に喪失量が多くなるからです。怪我など、体の外に見える出血はすぐわかりますが、慢性の消化管出血などは詳しく調べないとわかりません。消化器内科と緊密に連携しています。



赤血球の外観

米国「フランクリン研究所」  
のホームページより転載

赤血球は、主に骨髄という組織で作られています。骨髄は、大きな骨の中にあります。鉄などは足りていても、**骨髄の赤血球産生能力自体が低下しても貧血になります**。これは血液内科に紹介し、精査をしていただいています。

**貧血の原因には、「溶血」という病態もあります**。赤血球が何らかの理由で血液中で壊れてしまう状態です。弁置換・弁形成、人工血管置換などの心臓血管外科の術後患者さんでは、血液が人工物との関係で壊れやすくなることもあり、場合によっては再手術が必要になることもあります。

このように「貧血」と一言でいっても、さまざまな病態があります。その原因に応じて、的確な治療を行うことが重要です。血液内科、消化器内科など、院内各科との連携も重要です。

岩手県立中央病院心臓血管外科

健康講座 第8号